

能登復興支援事業

団体名●金沢星稜大学 SDGs 産学地域連携センター

代表者名●中村 明（金沢星稜大学 SDGs 産学地域連携センター長）

はじめに(背景・目的・目標)

2024年1月に能登半島地震が発生した。能登の被災された人たちの支援をするために金沢星稜大学 SDGs 産学地域連携センターが中心となり被災地の視察を行い、能登復興支援活動を行うこととなった。

活動内容

(1) 珠洲市・被災者の方々との交流

日 程：2024年9月6日(金)

場 所：若山公民館

参加者：金沢星稜大学学生 13名

金沢星稜大学女子短期大学部学生 3名

教職員 8名

内 容：珠洲市社会福祉協議会、すずささえ愛センターと金沢星稜大学 SDGs 産学地域連携センターが連携し、健康体操、ミサガづくり、写真立ての飾り付けなどのコーナー企画やお話などをして、能登地震で被災された方々を元気づけた。



(2) 能都町自然体験施設の山道修復

日 程：10月12日(土)

場 所：自然体験施設「ケロンの小さな村」

参加者：金沢星稜大学生 5名

教職員 4名

内 容：1月1日の能登半島地震で崩れた敷地内の山道などを、ボランティア団体「森のたね」の方々の指導の下、地元の「緑の少年団」の小学生とその保護者と一緒に、木の枝や落ち葉を利用した修復作業を行った。



(3) 能都町自然体験施設の桜回廊プロジェクト

日 程：11月10日(日)

場 所：自然体験施設「ケロンの小さな村」

教職員 5名

内 容：「ケロンの小さな村」の敷地内にある小高い山の上に桜でつなぐ回廊をつくるプロジェクトに参加し、植樹を行った。
また、桜の根本には、植樹記念に大学名が入ったプレートを設置した。



成果と今後の展望

能登復興支援事業として、学生・教職員による3回の活動を行い、被災した地域に対して一定の貢献ができた。

今後も地域住民の方々に寄り添い、継続して能登復興支援事業に取り組む予定である。